

都会の路地裏でステップを踏む 1・2・3

白く白くと引き伸びる

常温の風でステップを踏む 1・2・3

疾しと速しと引き伸びる

暗がりの反射のステップを踏む 1・2・3

黄色いライトがコマ送り

足音の無いステップを踏む 1・2・3

青いライトもコマ送り

そうしてここで、ひとりでに踊る、どろどろのオブジェ。

ようよう煙が目にしみる。

皆さんの背後でステップを踏む 1・2・3

見渡し得ない点と線

今迄今愈々ステップを踏む 1・2・3

おろかな影の美しさ

相も変わらぬリズムでステップを踏む 1・2・3

1・2・3 1・2・3

いやがうえにもステップを踏む 1・2・3

いつ、いつまでと、1・2・3

こうしてここで、ひとりでに踊る、どろどろのオブジェ。

おーついたついた、火がついた。

あやめもわからず、1・2・3

生きております、1・2・3

わたしのなかの、1・2・3

ずっとその場で、1・2・3

崩れろ

崩れろ

崩れろ

ダンダンダダン

壊してやるよ

壊したいんだ

ダンダンダダン

ダンダンダダン

ってね。

東京中のアスファルトに、

赤いペンキを流し込んでやりたい。

スクランブル交差点なんか、見ものだぞ。

バケツ一杯に溜め込んで

ヘリコプターで持ち上げて

ひっくりかえす。

全部終わらせてやるよ。

全部だ。

全部ってわかるか？

全部って意味がわかるか？

全部だ。

お前も一緒にやるか？

全部だ。

ダンダンダダン

ダンダンダダン

投げつけるんだ。

染まらせるんだ。

全部だ。

終わりだぞ。

終わって意味がわかるか。

終わりだ。

ダンダンダダン

ダンダンダダン

俺が照らし出す。

死ぬ迄照り付けさせてやる。

目なんか一瞬で爆発さ。

体の底まで焼き尽くしちゃうさ。

ダンダンダダンってね。

ダンダンダダンってね。

わかるか。

お前にわかるか。

ダンダンダダン

ダンダンダダンって。

わかるか。

お前にわかるか。

俺だ。

わかるか。

だだ漏れた。

だだ漏れた。

だだ漏れた。

だだ漏れだな！

おれとおまえと……

いやおまえは消えたから……

俺だけだ！

俺がだだ漏れだな！

俺だけが俺だけでだだ漏れだな！

目が覚めたら墓場のど真ん中で、て、て、

だだ漏れなんだな！

だだ漏れなんだな！

臭っ赤なもんがだだ漏れさ！

臭っ白なもんもだだ漏れさ！

おい。

街に繰り出して、靴で道路を引っ掻きながら、

音も動きもだだ漏れだ。

あいつは誰？ あいつって誰？

私を何処かへ連れてって

っておまえが言ったその記憶まで、

この街のと真ん中の穴か何かわからない空洞の

そこかしこにかけて……

だだ漏れだな！

だだ漏れだな！

だだ漏れだな！

ずんずんとずんずんと

俺は摩擦する

溶けちまうかよ溶かしちまうんだ。

だだ漏れだからさ！

だだ漏れだからさ！

馬鹿野郎馬鹿野郎馬鹿野郎

離れたら殺すって言ったのに

あんなに悲しそうな目をして言ってたのに。

殺しめせずに行くんだな

このアバズレ、アバズレ、アバズレ！

アバズレ！ アバズレ！ アバズレ！

アバズレ！ アバズレ！ アバズレ！

だだ漏れだ！

だだ漏れだな！

だだ漏れだな！

おい。

俺はかけずった

ほうらこんなかげだぜ

ほうらほうら

鏡に映ったおまえの姿。

全部憶えてるぜ。

黒い髪、白い背中。

全部憶えてるぜ。

ほうらほうら

ほうらほうら

ほうらほうら

だだ漏れだよ！

だだ漏れだよ！

あの日のじつとりした夕日のまえに薄く浮いた

足取りと足元を結ぶ一直線の間

だだ漏れているんだ！

だだ漏れているんだ！

俺はいつだって！

だだ漏れていたのだだだ漏れているのだ……

！

おまえも！

閉じこもって！

だだ漏れているんだ！

だだ

だだ

だ

だな！

だな！

だな！

だな！

おい。

だだ漏れだ。

一面の花だ。

一面の花だ。

一面の花は、身体を引きちぎった裏切りが微笑んでいるのね。

一面の花は、オレンジの身勝手な愛が塗りつぶす眩さなのてね。

ね。

一面の花だ。

一面の花だよ。

ほら、一面の花だ。

一面の、向こう側は、きつとずっと、明るくなってゆくのだろう。

一面の、こちら側は、きつともう、何処でもなくなったのだろう。

でもね。

ほら、一面の花だよ。

一面の花だから。

ダイブ！

一面だ！

一面だよ一面だ。

塗りつぶされたわたくしは。

引きちぎられたわたくしは。

ダイブ！

色も匂いも一面に。

一つ一つの花たちが。

燃え出すように気のふれた。

見境の無いオレンジの中に帰りたいの？

一面のぼやけた輪郭の裏側に潜り込む

追想やら追憶やらの感触のまにまに泳いでいたら

それは向こうに色褪せていた。

そんな彼方のクロッキー。

この線が好きです。

あの線が好きです。

これはあなたの故物線。

一面の中に落ちてゆく。

そしてこれはね、わたしの故物線。

もう見えなくなってしまったよ。

一面の花だ。

ああ、一面の花だ。

ぼくはもう見たくない。

一面の花だ。

ここは何処だろう。

ちょっとちょっと！

真横にひとつ、断裂した。

ちょっとちょっと！

ゆらゆらの足取りで転んだ。

ちょっとちょっと！

羊が一匹、羊が二匹……

うだるように白い。

考えようによっちゃ、考えようもあるかな。

ちょっとちょっと！

気がついたら、気がついていた。

ちょっとちょっと！

羊が三匹、羊が四匹……

白い。

朝が剥がれ、夜が剥がれ、一日が剥がれ、

ちょっとちょっと！

右側に進んでゆく……

ちょっとちょっと！

羊が五匹、羊が六匹……

見えない。

あれ？ 今の眼差しは。

もう、ちょっと。

今、俺を見かけた。

もう、ちょっと。

羊が七匹、羊が八匹……

もう、ちょっと。

階段。でも、全ての段が、バラバラ。

そうかい。

俺かい？

ちょっと。

正解？

何故かい？

そうかい。

羊が一匹、羊が二匹……

そうかい。

うだるように白い。

そうかい。

バラバラ。バラバラ。

そうかい。

剥がれた。

そうかい。そうかい。そうかい。

世に情景はありません。
ご覧下さい花道を。
通う言葉の影ばかり。
近きは遠く、いと遠く。

世に情景はありません。
空白の中で傍白を。
今日も舞台は絹の幕。
客は平面、紙の外。

尽きず尽くせず喋りたい。
黒く燃えられた宵の口。
梔子の花、芥子の花。
独りばっちの目眩し。

よいのよいよいよいのよい
きのみきのまみひとつ
やむにやまれぬ目眩し。
疲れ果てても目眩し。

世に情景はありません。
ご覧下さい足元を。
通うは風と時ばかり。
遠きは近く、いと近く。

世に情景はありません。
白紙の上で告白を。
語れ語れよ朗らかに。
語れ語れよ無邪気にと。

一心不乱に喋りたい。
宵は怨色酔いの内。
恍惚の歌、虚無の歌。
波打つ過去の目眩し。

よいのよいよいよいのよい
だれもどこにもおりません
わからずやゆえ目眩し。
源浮かべて目眩し。

世に情景はありません。
いつの間にやら消えました。
愛や自由や消えました。
意味や存在消えました。

世に情景はありません。
あれはせいぜい白い空。
だれに語ればよいでしょう。
だれに語ればよいのです？

めくらくらくめくらし
つらつらとつられゆく
はらはらはらはらり
さらばしからばまたいつか

世に情景はありません。
ときを彫ります過去見ます。
おもい言葉で囲みます。
私、情景、蚊帳の外。

世に情景はありません。
たとえばあれは白い床。
消えぬ記憶に居候。
消えぬ私は目眩し。

よいのよいよいよいのよい
よいのよいよいよいのよい
よいのよいよいよいのよい
えんさ、えんさ、えんさ、えんさ

えんさえんさ。
あーあ。

いつかさやっていたので……

アン・エ・アン・エ・ドゥ

いつかさやっていたので……

アン・エ・アン・エ・ドゥ

遅ればせながら、少し髪が、伸びました。

遅ればせながら、少し涙が、乾きました。

おぼろげに白い

過去の合間に照らされて

たまには眺めた窓の外を

そろそろ懐かしみながら

なぜなのか、こうさやいていたので……

アン・エ・アン・エ・ドゥ

なぜなのか、こうさやいていたので……

アン・エ・アン・エ・ドゥ

遅ればせながら、低く低くと、しゃべりましょう。

遅ればせながら、低く低くと、歩きましょう。

少し日が短くなり

ようやく忘れかけた足音に

有ったようで無いような笑い声に

別れを告げて

とめどなく、とめどなく、アン・エ・アン・エ・ドゥ

とめどなく、とめどなく、アン・エ・アン・エ・ドゥ

そうそれは

命のように、とめどない

命のように、とめどない

醫^イりを欠いた、とめどない余白

そう、思ったとき、花びらが舞った。

ああ花が散った。

そう、

ただそれだけの、とめどなさ

ただそれだけの、とめどなさ

舞い踊る、ロずさむ、アン・エ・アン・エ・ドゥ

舞い踊る、ロずさむ、アン・エ・アン・エ・ドゥ

アン・エ・アン・エ・ドゥ

感覚もなく繰り返す、アン・エ・ドゥ

音もなく、アン・エ・ドゥ

遅ればせながら、少し辺りを、見廻しました。

遅ればせながら、少し耳を、そば立てました。

何かがありました。

何もありませんでした。

ああ、聞こえてきました。

エヘッ。ニッ。

そう、そんな感じて……

いつか聞いていた、アン・エ・ドゥ

誰も聞かなかった、アン・エ・ドゥ

遅ればせながら、ああそうか、忘れました。

遅ればせながら、そうなんです、忘れました。

遅過ぎました。

もう、帰ろうと思いました。

少々嘘をつきました。

舞い踊る、ロずさむ……

舞い踊る、ロずさむ……

エヘッ。

昔の景色は、ありません。
昔の景色は、ありません。

歪んだ色の光の中に
蛾のように吸い込まれてゆきました。

アン・エ・ドゥ
アン・エ・ドゥ

繰り返す、アン・エ・ドゥ
乾いた涙の、アン・エ・ドゥ

かつてはいまは
残り残され残らない
とめどない記憶と追憶の

でも、
これだけではどうか忘れずに。

アン・エ・ドゥ
アン・エ・ドゥ

かつてはいまで
とめどない余白
おそらくはまだ生きている……

くちずさもう
アン・エ・ドゥ
くちずさもう
アン・エ・ドゥ

アン・エ・ドゥ
ムナシ・エ・ドゥ
ムナシ・エ・ドゥ

星空探しに行きましょう

新月の夜の山の中は

木々の切れ切れ霧霞

弾丸のように越えてゆけば

光も温度も後背位

温度音頭温度

温度音頭温度

寒いのです暗いのです

車が駆けて行くのです

星空探しに行きましょう

木々の送れる山の中へ

テクノロジカルダンシング

ゲミカルナチュラルクラシカル

星空探しに行きましょう

枯葉も迷う山の中へ

テンポラルなるハイビーム

コンテンポラルランスルー

もっともっともっと

もっともっともっと

寒いのです暗いのです

後ろが淡く浮くのです

星空探しに行きましょう

先の見えない山の中

先の見えない山の中

先の見えない山の中

今日もたんまり遊びました

鹿と遊びました猿と遊びました狸と遊びました

あなたは車を動かして

ハートフルな遊び

道形みちがたの先の道形みちがたは

その都度都度の分かれ道

木々が晴れば空が見え

木々が晴れねば葉が覆う

もっともっともっと……

もっともっともっと……

寒いのです暗いのです

あなたと入って行くのです

星空探しに行きましょう

曲がりくねった山の中

あなたと入って行くのです

あなたと入って行くのです

これは遊びでしょうか

もぞもぞするものでしょうか

激烈なものでしょうか

涙でしょうか

ころででしょうか

時間ででしょうか

あなたででしょうか

思い出ででしょうか香水ででしょうか

ドアトンネルライト

ドアトンネルライト

ね。

奥まった湖が絵のように見える

昨日のことやら明日のことやら

道が凍れば下り坂

遊びででしょうか一人ででしょうか

一個の車が

小さくなってゆきます

一個の車は

一つなのです

鹿や猿や狸が

見送っております

星空探しに行きましょう

星空探しに行きましょう

とことこぶんぶん行きましょう

星空探しに行きましょう

さようなら！ さようなら！

この人はあの人になって

この日々はあの日々になって

なってしまってそうしてここで

巡り巡って回ります。立てど座れど回ります。

巡礼するかのような観覧車

風が吹きました。雨が降りました。

いつの間にか今日は過ぎて

風に舞った一枚の紙切れ

かわいらしい紙切れ

回ります回ります。何も目掛けず回ります。

ひとときひとときを巡礼する観覧車

なのに

まだ何かを言わなければならないのですか？

僕はここにいるんだけとな。

さんはい

ばんざい

また会う日まで

ウィール ウィール ウィール

回ります回ります

また会う日まで

思い出します眺めます

せめて言葉で記します

沢山の物語が消えても全ての物語が消えても

思い出すだけです

巡礼するかのような観覧車

語ります語ります

そして言葉で記します

一片の紙片がある限り

はためかせます

はたにかこまれた観覧車

からんからん

からんからん

はたをあげる

はたからの

傍観者 観覧車